

# 横浜型救急システムの運用の見直しについて

## これまでの効果と課題

- 【効果】**
- 緊急度等の高い事案に対する早い現場到着
  - 救命活動隊が一定の救急空白地域をカバー
- 【課題】**
- 救急隊及び救命活動隊の2隊4名での出場が8割以上を占めている
  - 当初想定していた重篤な傷病者への空白カバーが十分でない

## 主な変更点

- 1 救急隊の編成人員  
救急隊は1隊3名で編成
- 2 救命活動隊の出場対象  
緊急度等が高い識別カテゴリー「A」のうち、救急隊より要請場所に近い事案に限る
- 3 識別カテゴリー「C」への対応
  - 1隊3名での出場を基本
  - ※ 一人で問題なく歩ける方など、救急隊2名で対応可能な場合は、2名での出場も可能
  - ※ 2名で出場した場合、残った救急隊員1名は救命活動隊等に乗務し、救急空白地域で発生した重篤な事案に出場

## 見直しにより期待される効果

- 1 重篤な傷病者に手厚い対応を図ることによる、救命効果の向上
- 2 救急出場大部分を占めていた2隊4名での出場が、1隊3名となることで、効率的かつシンプルな運用

表 119番通報時における緊急度・重症度識別

識別カテゴリー	緊急度・重症度
A+	生命の危険が切迫している可能性が極めて高いもの
A	生命の危険が切迫している可能性があるもの
B	生命の危険性があるもの
C+	生命の危険性はないが、搬送に困難が伴うと思われるもの
C	生命の危険はなく、搬送に困難が伴う可能性が低いもの
不可	通報からの情報不足により、識別が不可能なもの
不能	転院搬送、災害事案、覚知通報等、識別を実施しないもの

## 見直し運用イメージ

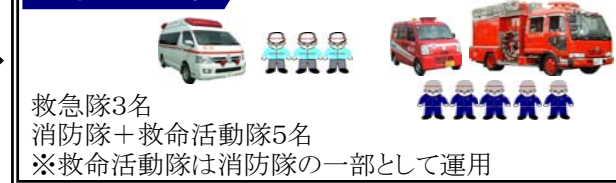
### これまでの運用

#### 基本的な配置



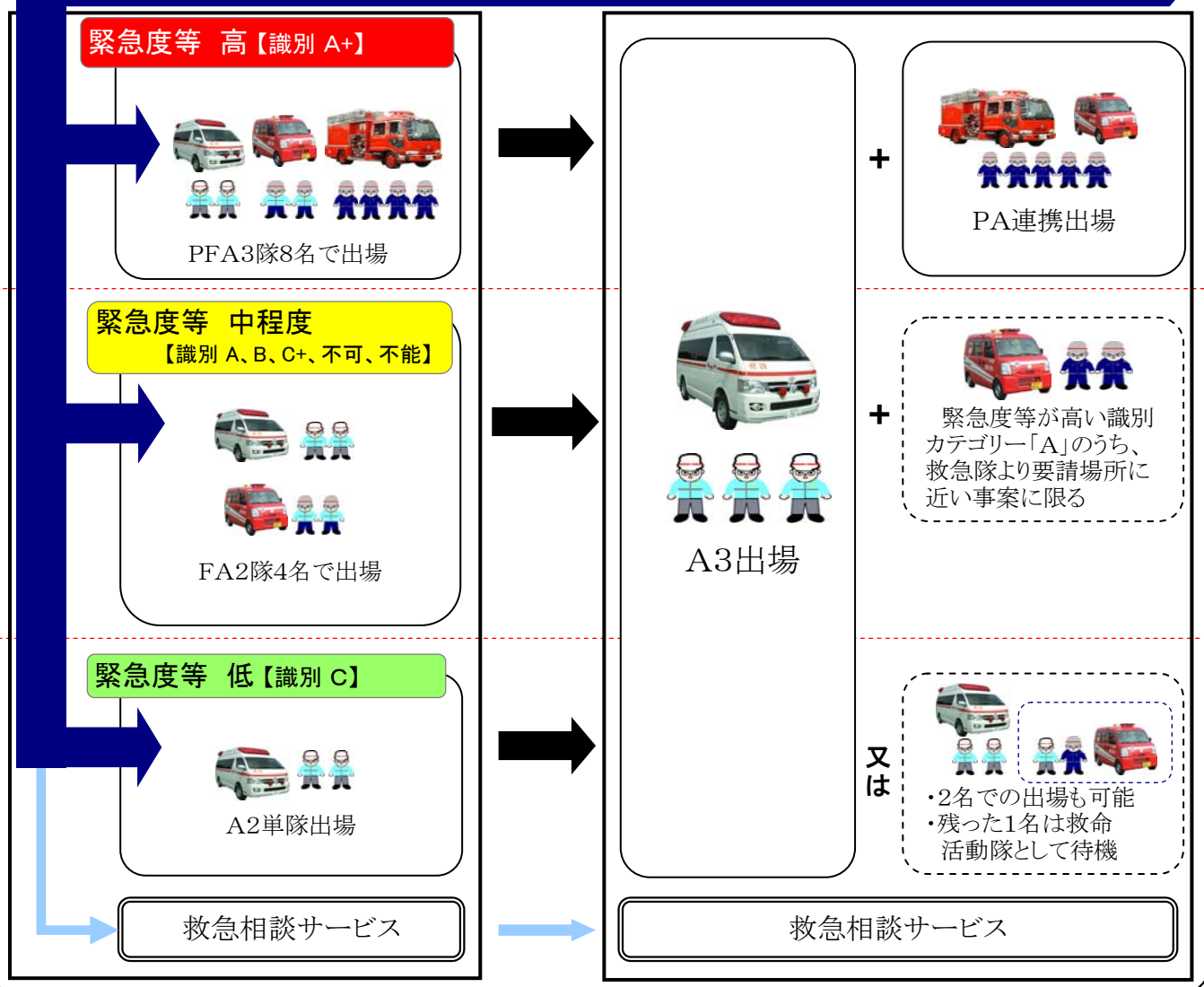
### 見直し後の運用

#### 基本的な配置



## 出場体制

### 119番通報時における緊急度・重症度識別



## 試行運用スケジュール

- 3月上旬 各種会議における所属説明
- 3月12日 横浜市メディカルコントロール協議会における説明
- 3月19日 横浜市救急業務委員会における説明
- 3月下旬 試行運用開始
- ※ 以降定期的に検証を実施した上で本格運用に移行